

かながわの 俳壇時評

酒井弘司

今年も「17音の青春2019」(角川書店)が刊行された。

ここに収録されているのは、神奈川県立大学全国高校生俳句大賞の受賞作品。

本年度で21回目を迎えるというところであって、応募数は1万1022通(1通3句)。いまや全国の高校生から作品は寄せられている。

もう一つは、若者の俳句熱を象徴するイベントとして成長してきた俳句甲子園(全国高校生俳句選手権大会)。毎年8月に松山市で開催される。ともに高校生世代が俳句で活躍する場である。

今回は、「17音の青春2019」の受賞作品を見ていこう。

最優秀賞受賞作品では、

○花莫座に遙かなる海句ひけり
(東京・開成高) 笹田陽太

○教科書に奴隷の話大西日
(愛知・名古屋高) 牛田大貴

○鰯雲無口な父の絵文字かな
(和歌山・向陽高) 花田莉音

○羊膜を引きずる仔牛春の月
(愛媛・松山東高) 中山寛太

○しゃぼん玉はせる天使が触

れるから

菊川和奏
(熊本高)

どの句も、直情な感性で着想が若々しい。高校生の清新な句には、目をみはらされる。

入選作品は、本県の高校生の作品を挙げておく。

○幼い子左に母の手右に蝉

辻本穂佳

(小田原高)

○数学や君の想いは受け取れぬ
(神奈川大附属高) 児玉祐輔

○カレンダー八月分は真っ黒だ
(神奈川大附属高) 平本敬大

○峰雲や無言の生徒指導室
(鎌倉女学院高) 金澤響子

○思いきり泣きたくなる夜秋近し
(慶応湘南藤沢高) 宮内唯衣

○ぼつぷらに水壘という宇宙あり
(相模女子大高) 原澤佳乃

○紫陽花や力いっぱいこへべ
(法政二高) 原杏華

○長い長い三者面談法師蟬
(横浜翠嵐高) 伊集院亜衣

詠まれているのは、家族のこと、学校生活、また自らのことと表現は多岐にわたる。

世界でもっとも短い詩である俳句に込められた若者の青春性。生涯にわたって詠み続けてほしいと願わずにはおれない。

また俳句の青春性が、今日の俳句状況を打破する新風につながることを期待したい。

(俳人)

〈第2木曜掲載〉

〈第2木曜掲載〉

「17音の青春2019」 期待に感性の高校生